第 3 問

設問A→赤色
設問B→水色

次の(1)～(5)の文章を読んで，下記の設問Ａ・Ｂに答えなさい。解答は，解答用紙(ハ)の欄に，設問ごとに改行し，設問の記号を付して記入しなさい。

唐の暦に依拠

(1) 日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海(しぶかわはるみ)は元(げん)の暦をもとに，明で作られた世界地図もみて，中国と日本(京都)の経度の違いを検討し，新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し，天体観測や暦作りを行う天文方を設置して，渋川春海を初代に任じた。

幕府
- 渋川春海考案の新暦を採用
- 天文方設置→天体観測、暦作りの推進

(2) 朝廷は幕府の申し入れをうけて，1684 年に暦を改める儀式を行い，渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名した。幕府は翌 1685 年から貞享暦を全国で施行した。この手順は江戸時代を通じて変わらなかった。

朝廷：儀式を行う ⟷ 幕府：新しい暦を施行する

(3) 西洋天文学の基礎を記した清の書物『天経或問(てんけいわくもん)』は，「禁書であったが内容は有益である」と幕府が判断して，1730 年に刊行が許可され，広く読まれるようになった。

享保の改革→洋書輸入の禁緩和→漢訳洋書を用いる

朝廷の失敗

(4) 1755 年から幕府が施行した宝暦暦は，公家の土御門泰邦(つちみかどやすくに)が幕府に働きかけて作成を主導したが，1763 年の日食の予測に失敗した。大坂の麻田剛立(あさだごうりゅう)ら各地の天文学者が事前に警告した通りで，幕府は天文方に人員を補充して暦の修正に当たらせ，以後天文方の学術面での強化を進めていった。

幕府が暦の作成など実務の中心→天文方にさらなる注力

(5) 麻田剛立の弟子高橋至時(たかはしよしとき)は幕府天文方に登用され，清で編まれた西洋天文学の書物をもとに，1797 年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景佑(しぶかわかげすけ)は，オランダ語の天文学書の翻訳を完成し，これを活かして 1842 年に天保暦を作った。

漢訳洋書→蘭書を用いるように

蛮書和解御用の使用

設　問

A　江戸時代に暦を改めるに際して，幕府と朝廷はそれぞれどのような役割を果たしたか。両者を対比させて，２行以内で述べなさい。

主題

条件

きれいな対比構造で解答したいところ

B　江戸時代に暦を改める際に依拠した知識は，どのように推移したか。幕府の学問に対する政策とその影響に留意して，３行以内で述べなさい。

主題

条件

問題文の細かな表現にも反応できるようにしたいところ